



結果と過程について

6月9日（金）に愛媛県総合運動公園相撲場で、松山市小学校総合体育大会すもうの部（以下「すもう総体」）が行われました。新型コロナウイルス感染症の影響により、4年ぶりの大会となります。

結果は、ホームページでもお伝えしましたが、5年生男子北ブロックにおいて、本校が優勝、準優勝というすばらしい結果を収めました。同一校の選手が決勝で対戦することは、本当にまれなことです。また、参加した選手のほとんどが2回戦に進みました。一方で、残念ながら、1回戦で惜しくも敗れてしまったり、選手枠があるためすもう総体に出場できなかったりした子どももいます。すもう総体に向けて練習してきた子どもたち全員が、自分の立てた目標に対して満足することができる結果ではなかったかもしれません。

しかし、大事なことはそこまでに至る過程です。まずは、「すもう総体に参加してみよう」というチャレンジする姿勢。すもう総体は3年間行われていませんから、経験者はいません。大会についてイメージしにくかったと思いますが、そこにあえて飛び込むことは、勇気があることではないでしょうか。

次に、練習に対する取り組み方。毎日ではありませんが、放課後に練習をしました。すもうでは、しこや腰割、すり足など基礎練習が中心です。教員相手に頭から当たって、押し続ける練習もします。普段の運動では、あまり経験しない動きで、とても力を必要とします。それを、継続したことが立派です。また、選手になれなかった子どもたちも練習を続け、取組相手になりながら選手と一緒に力を付けていました。正に「継続は力なり」です。練習している子どもたちの表情が、どんどんよくなっていました。

最後に、悔しいと思う気持ち。練習をする中で悔しさを味わう場面がありました。すもうは、勝負がはっきりしています。勝つことだけが目標ではありませんが、「悔しい。今度は勝ちたい。」と思うことは、次の行動に繋がります。どうすれば勝てるのか、ということを考える経験をしました。

すもう部以外の子どもたちは、どうだったでしょうか。すもう総体の壮行会では、選手が自分の目標をしっかりと伝え、それにこたえる形で、大きな声援をおくっていました。また、デモンストレーションとして、教員との対戦を行ったときには、大変盛り上がりました。壮行会では、選手を応援しようという気持ちで一杯でした。それが選手の支えになったと思います。さらに、今回のすもう総体の結果を、校内放送で伝えた時には、校舎内に歓声が響きました。すもう部以外の子どもたちも、総体の結果を気にしていたことがよく分かりました。全校で一緒に喜ぶことができたのは何よりでした。

今回のすもう総体の練習では、若手の教員が子ども

たちと一緒に取り組み、経験のある教員が土俵を常に見守っていました。手前みそではありますが、潮見小学校の教員は、熱意をもって子どもたちと向き合っていることに、校長として喜びを感じていることも付け加えたいです。

今回のすもう総体の練習では、若手の教員が子どもたちと一緒に取り組み、経験のある教員が土俵を常に見守っていました。手前みそではありますが、潮見小学校の教員は、熱意をもって子どもたちと向き合っていることに、校長として喜びを感じていることも付け加えたいです。

